

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400160		
法人名	株式会社 桜梅桃里		
事業所名	グループホーム 和楽の家 荘内		
所在地	岡山県玉野市長尾333-3		
自己評価作成日	平成25年1月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成25年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人一人の今まで生きてこられた人生を大切に、尊重しその方らしくいられる居場所づくりを共に創造し、「もう一つの我が家」と思っていただけのような笑顔の絶えない安全で安心できるホーム作りに努めています。又、スタッフ同士心にゆとりをもって笑顔が耐えないケアができるよう目配り気配りして行きたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者の特性を把握しながらその人らしい暮らしの支援に努め穏やかで明るい雰囲気職員と入居者が共につくり出している。グループホームという集団生活のなかでコミュニケーションを大切にされた支援が行われているのを感じました。地域とのコミュニケーションも図られており地域密着型として安定した歩みを進めている様子が窺えました。開所からおよそ1年になろうとしていますが、桜・梅・桃などそれぞれ花開くときや色・形が違いうように、様々な人生に寄り添い、受け入れ、尊敬し、あたたかい家族のような暮らしを目指し、理想を高く掲げ情熱を持って取り組んでいる様子が見えがえす。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域で生活されていた入居者様が、こちらでも自分らしく生活し地域の方々とつながるようになっている。	関連施設全体の理念を踏まえ当事業所独自の理念(全職員で考えた)を掲げ、目標を立てて日々実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には、地域の方にも参加して頂き意見を聞く。又、入居者様と買い物や散歩の際、地域の方達と挨拶を交わしたり、お話をしたりしている。ホームの行事には、こちらへお招きしたりしている。	町内会の一員としての取り組みを進めており、町内会長の協力も得て地域・地区の催しを通して交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やホームの行事等において頂いた際に認知症の方への理解・支援をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での報告に対してのアドバイスを頂きサービスの改善に役立てている。	地域包括の職員・町内会長・愛育委員・民生委員家族の方などで2ヶ月に1度開催し要望やアドバイスをサービスの向上に活かしている。	管理者・計画作成担当者だけでなく職員や入居者の参加にも前向きに取り組まれる事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者を中心に市担当者へ現状や取り組みを伝え連携を深めている。	わからない事・問題点・疑問に思う事など相談したりアドバイスを受けるなどしながら協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人研修には、身体拘束をしないケアについて話している。日中は玄関を開錠し、常に入居者様の所在確認を行っている。又、近所の方にも理解・協力をお願いしている。	毎月1回の定期研修の他、現場でもその都度身体拘束の正しい理解と実践の指導を心掛け全職員のケアの向上に努めている。	これからもその人らしさを大切にした支援に努めながら拘束について学んで行かれる事を望みます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人研修で高齢者虐待防止法に関する理解の取り組みを行い、職員が疲労やストレスを抱えないよう休息を十分取れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者または施設ケアマネが対応。他スタッフは理解できていない。支援できる体制が万全とはいえない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項を読み上げ、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1か月に1回、御家族にお便りを出したり、面会時には声掛けし、常にコミュニケーションを取っている。運営推進会議にも出席して頂き、何でも言い合える雰囲気作りに留意している。	コミュニケーションを大切にした運営を心掛けている。現状では家族から散歩の要望が多く、天候や体調、入居者の希望に合わせた外出支援を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、生活向上会議や個人面接等を行い、職員の要望や意見を聞けるように心掛けているが、不満や苦情は言い難い部分もある為、把握しきれない可能性がある。	月1回のユニット会議や2ヶ月1回の全体会議などで提案や意見を聞く機会を設けている。また、日々の気付きや意見をサービスに反映させている。	これからも日常の不満や苦情など、話し易い雰囲気と把握に努められる事を期待しています。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、新人研修・スキルアップ研修を本社で実施している。又、法人内外での研修は提示し希望を聞きながら受講できるよう職員に勧めている。又、生活向上会議を毎月開催し、職員のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、2か月に1回、本社で会議を開催し他の事業所との情報交換を交わしている。又、職員には法人研修にて意見交換を交わしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では、生活状態を把握するよう努め、本人の要望や不安を理解しようと努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時に、御家族が求めているものを理解し事業所として、どのように対応できるか話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限りの対応を行い、ケアマネと連絡を取り、他のサービス利用をつなげる等、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の大先輩である事を職員が共有しており、普段から入居者さまに教わる姿勢で対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の様子や職員の対応の様子を家族にお便りしたり伝える事で家族との協力関係が築けるようになってきている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には、家にある馴染みの物を持ってきて頂いたり、家にいた時と同じような生活習慣を尊重している。	開所から1年を迎えようとしており、入居者の状況に合わせてながら地域との馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のおやつタイムや食事時間は同じテーブルで職員も一緒に席につき食べる。会話を伝えたり役割活動を通して入居者様同士の関係が円滑になるよう声掛けしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、自宅療養になり契約終了した場合にも連絡。引き続き、付き合いが出来るよう声掛けし心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや希望を聞き表情を観察している。意思疎通が困難な方には、御家族や関係者から情報を得ている。	その人らしい暮らしの支援を心掛けコミュニケーションを図りながら意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にバックグラウンドを本人や御家族に記入して頂き、サービス利用の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々できない事より、できる事に注目し、その方の有する力を自信とつなげるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネや管理者・担当者が面会時、御家族と話す。又、カンファレンスで職員全体で意見を出し合い反映させるようにしている。	担当職員の意見を全職員で話し合いながら現況に添った介護計画の作成に努めている。(新人職員の新鮮な視点からの疑問や意見もあり研修の場になる事もある)	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを用意し食事・水分量・排泄等、身体的状況及び日々の様子・本人の発言した事等を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況や意向に配慮しながら個々の満足度を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1度、音楽療法を行っている。季節ごとに外出し心身のリフレッシュをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々にあった医師と情報交換を取り合いながら適切な医療を受けられるよう支援している。精神科医師とも情報交換を取り合いながら認知症に関する状態や治療を受けられるよう支援している。	母体が医療機関で、協力医療機関との連携も整っている様です。月2回の往診や個々に合った受診支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で入居者様の健康状態を把握し常に管理者・看護職員と相談しながら日常の健康管理や医療活用を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と連携しながら入院先の医師に情報提供を行う。早期退院に向けて病院関係者との情報交換を行っている。(退院時も同様に努めている)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来るだけ早い段階から主治医・御家族・管理者で話し合い、情報交換や相談に努め方針を共有している。	重度化や終末期についての方針と支援の共有に努めている。未経験な職員の不安感を取り除くよう日頃から折に触れ話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には必ず管理者・看護師・医師に連絡を取り初期対応に努めている。ヒヤリハット・事故報告書も提出し、どうして事故が起こったのか、今後の対応について話し合っている。又、看護師より指導を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練実施・消防署の方より消火活動を実施して頂き、消火器の取り扱い方等について教えて頂く。(地域の皆様にも声を掛けて、お願いしている)	火災時の訓練のおり天災害時の避難についても消防署の方と話し合っている。	これからもさまざまな災害時の瞬時の対応、その後の対策など日頃から話し合われる事を望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライベートスペース・セミプライベートスペースでプライバシーが守られる状況を確認、また、声掛け、言葉遣いに気をつけて注意を払うよう心掛けている。	信頼関係を築くなか、人権を意識する様心掛け誇りやプライバシーの大切さを話し合いその人らしい暮らしの支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	簡単明瞭な言葉かけでYESかNOか決定できるような質問で自己決定できるように支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日・1週間で決まっている事は声掛けし拒否があれば無理強いせず本人の意向を受け入れ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択は本人の意思を尊重。男性は髭剃り、女性は、お化粧が出来る方にはして頂き、その方らしい身だしなみをして頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が無理なくできる事(野菜を切る・味付け・盛り付け等)を職員と一緒にやっている。	入居者の希望を聞きながら献立を決めている。楽しくおいしい食事が出るよう一人ひとりの好みや機能を大切にした支援に努めている。また、雰囲気づくりにも気を配っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その時の状態に合わせ、不足の際は捕食などを行い、1日に必要な栄養・水分を摂って頂く。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨きをして頂くよう声掛けし誘導している。本人ができない場合は介助し口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄のタイミングや頻度、排泄の有無を記録し把握している。又、排泄動作は、本人のできる部分は見守りに対応している。	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め本人の生活リズムに添った支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の必要な水分量、繊維質、オリゴ糖等の確保や適度な運動の促しを行っている。又、排便間隔の把握を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特別、細かい時間は設定せず時間帯の枠を大きく取り臨機応変に対応している。	習慣や希望を大切に一日の流れのなかで一人ひとりに合わせた入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠の為、日中に傾眠などが多くならないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルの服薬情報を把握し確認している。又、飲み忘れ防止の為、記録をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様としっかりコミュニケーションを取り、今までの生活歴を知り、グループホームでも役割を持って頂けるよう考えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物に行くときは声掛けし一緒に行って頂いたり、お天気の良い日は散歩に出かけている。お花見のドライブには家族にも声掛けしている。	天候・気分・体調などその日の状況や好み、機能に合わせ、買い物・散歩、車いすの人も歩きながら疲れたら車いすへ掛けてもらうなどそれぞれに合わせた外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様と相談の上、施設で管理し買い物の時などは入居者様に支払いはして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が自ら携帯電話されたり、希望があれば、その都度、御家族様に連絡を取り会話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を一緒に生けてホールに置いたりし心とむよう工夫している。浴室にも冷暖房を完備して快適に過ごして頂けるようにしており、トイレ・浴室も一目で分かって頂けるよう表示している。	プライバシーに配慮した造りでトイレの位置・天窓からの明かりとり、収納など随所に工夫がみられ玄関・居間など共用空間は季節の花や壁の飾り付けなどで居心地よく過ごせる環境作りがなされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の部屋もあり落ち着いて過ごせる場所もある。ご自分の居室以外でもお一人で、のんびり過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前、ご自宅で使われていた家具やインテリアなど、お好きな物を持って来られ、なるべくご自宅に近い雰囲気にして頂き、穏やかに過ごして頂けるようにしている。	居室は思い思いの筆筒や必需品で一人ひとりの暮らしに添った飾り付けや配置がされていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新たな問題が生じた時は職員で話し合い入居者様の不安や分かりにくい点などを取り除き自立支援に努めている。分かりやすく目印をつけたり工夫している。		